６年　国語科学習指導案

授業者　大阪市立海老江西小学校　坂田　知之
大阪市立南住吉小学校　　藤岡　美希

１　日　　時　　令和８年 11 月 10 日（火）第５校時（14：00～14：45）

２　学年・組　　第６学年い組（海老江西）（在籍 28 名）　第６学年４組（南住吉）（在籍 31 名）

３　単 元 名　　プラスチックごみの問題について考えよう
（保坂直紀「『永遠のごみ』プラスチック」東京書籍６年）

４　単元目標

(1)　情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
〔知識及び技能〕(2)イ

(2)　目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

(3)　文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ

(4)　言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

５　単元間の関連と系統

前単元（５年１０月）	本単元（６年 10 月）	次単元（６年 10 月）
学習材 「和の文化を受けつぐ―和菓子をさぐる」 目的に応じて、文章と資料や図表などを結び付けることで、必要な情報を見付けて論の進め方について	学習材 「『永遠のごみ』プラスチック」 複数の情報を関係付けながら読み、自分の考えをまとめる。	学習材 「発信しよう、私たちのSDGs」 相手や目的を明確にし、文章や図表などの伝え方を工夫しながら、情報を発信する。

６　単元で取り上げる言語活動

「私たちにできることを考えよう」という言語活動を設定する。これは、複数の情報を関係付けることで、プラスチックごみ問題の解決に向けて、自分が考えたことをまとめる言語活動である。この言語活動を行うためには、本文や資料の情報、さらに関連図書やインターネットサイト情報から、プラスチックごみ問題に関わる事柄を整理・分類してまとめたり、類似点から分かることを類推したりし、自分の考えを広げることが必要になる。

したがって、この言語活動は、本単元の目標にふさわしい言語活動であるといえる。

（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕C(2)ウ）

７　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ)	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。　(C(1)カ)	①進んで複数の文章を読み、情報と情報を関係付け、プラスチックごみ問題の解決策についての利点や問題点を比較・整理・分類し、自分の考えを広げようとしている。

８　指導にあたって

【学習者観】

５年生の 10 月に学習した「和の文化を受けつぐ―和菓子をさぐる」では、本文と資料の共通点を捉えながら学習を進めることができた。本文で示された「歴史」「文化」「支える人」の観点のうち、和菓子職人のビルさんの資料は、三つ目の観点「支える人」にあたることを捉え、本文と資料を重ねて読む学習に取り組んだ。重ねて読むことで職人の苦労や願いを読み取り、「歴史」「文化」「支える人」が相互に関連することで、和の文化を受けついでいくことができることを、学習者は改めて認識し、自分の考えをまとめることができた。

６年生の５月に学習した「イースター島にはなぜ森林がないのか」では、序論・本論・結論に分け、本論に示された複数の事例と筆者の主張を関連させて読み取ることができた。また、ポリネシア人の事例とラットの事例について、それぞれの内容を整理するとともに、事例同士の関係について考えることができた。事例同士の関係を考えることで、文章全体が原因と結果の関係で構成されていることに気付き、全体の構造を捉えることができた。

７月に学習した「インターネットの投稿を読み比べよう」では、書物・ことわざ・格言などを引用することで、意見に説得力をもたせる働きがあることを理解することができた。第三次の言語活動では、教科書に掲載された議論の続きから参加する活動を設定し、これまでの投稿に対して、自分の意見に説得力をもたせるために、どの情報を選んで引用することが有効かを考え、必要な情報を引用することができた。

このように、学習者は二つの文章を重ねて読んだり、事例同士の関係や必要な情報を引用したりすることはできているといえる。しかし、本文や資料、関連図書やインターネットなど、複数の情報を整理・分類したり、類似点から分かることを類推したりし、自分の考えを広げることについては、まだ十分とはいえない。

【単元観】

本単元では、プラスチックごみの問題について書かれた本文と、その解決につながる取り組みが紹介された資料①②、そして関連図書やインターネットサイトに書かれた文章などから、複数の情報を関係付け、自分の考えを広げることをねらいとしている。そのために、自分にできることを考えまとめる言語活動「私たちにできることを考えよう」を設定する。

本学習材「『永遠のごみ』プラスチック」は、プラスチックごみが「生き物に与える影響」「困ったごみになる理由」、そして、そのプラスチックごみを永遠のごみにしないために「私たちができること」について説明されている。また、序論と結論には、地球の環境を汚さないプラスチックの使い方について考え、「行動に移しましょう」という筆者の主張が述べられている。ここから、双括型の説明文であることが分かる。

筆者は、プラスチックごみ問題の原因の一つとして、自然界で分解されないことを述べている。しかし、資料①には、一定の条件のもとで水と二酸化炭素に分解される「生分解性プラスチック」について書かれている。また、資料②には、捨てられるはずの漁網を再利用した「漁網かばん」が紹介され、ごみとなったプラスチックが再利用されている取り組みとして、紹介されている。このように、本文と資料①②、そして関連図書やインターネットサイトなど、複数の情報を整理・分類したり、類似点から分かることを類推したりすることで、自分の考えを広げることができる。

さらに、本単元での学びは、次の「書くこと」の単元である「発信しよう、私たちの SDGs」に接続することができる。学習者は、本単元で身に付けた「複数の情報を関係付け、自分の考えを広げる」力を生かし、SDGs というテーマについても同じように学習を進め、持続可能な社会の実現に向けて、自分たちができることを考え、それを発信することができる。

【指導観】

第一次では、題名読みをする。題名読みでは、身の回りのプラスチック製品を挙げることで、プラスチックが日常生活において欠かせないものであることを確認する。その後、「永遠のごみ」という言葉に着目することで、プラスチックごみの問題について考えるという必要感をもつことができるようにする。

題名読みをしたら、言葉の力を確認し、本単元と既習単元のつながりをデジタル教科書を活用して確認でき

るようにする。単元間のつながりを確認することで、５年生の「和の文化を受けつぐ－和菓子をさぐる」では、本文と資料を重ねて読み、和菓子職人の苦労や願いといった、本文を読むだけでは不十分だったことを詳しく捉えることができた学習経験を振り返るようにする。また、指導者が作成した言語活動のモデルを見せることで、単元の見通しをもつことができるようにする。

単元の見通しがもてたら、初発の感想を書くようにする。初発の感想は、「はじめて知ったこと」「そうかなと疑問に思ったこと」「大変だと思ったこと」「自分にできること」の四つの観点で書くようにし、全体で交流する。

全体交流後は、文章構成を捉える学習に取り組む。「最初に」「次に」「最後に」といった順序を表す言葉に着目して序論・本論・結論に分けたり、段落の初めの一文に着目して本文の要点を捉えたりする。要点を捉えることで、本文と資料①②に共通したり、類似したりする「分解」や「リサイクル」「再利用」といったキーワードを確認し、13、18 段落が資料①と、そして６、16、17、18 段落が資料②とそれぞれ関係があることを捉えるようにする。さらに、序論と結論に述べられた筆者の主張に着目することで、双括型の文章構成であることを押さえ、要旨をまとめるようにする。

第二次では、まず本文と資料①を関係付け、プラスチックごみの問題解決に向けて、自分の考えをまとめる学習に取り組む。ここでは前述の文章構成や要点について、壁面掲示を活用して振り返ることで、資料①に関係する段落が 13、18 段落であることを振り返り、「分解してくれる微生物は、ほとんどいません」、「分解されてなくなるわけではない」、「環境をよごし続ける」などの叙述を確認する。確認後は、これらの叙述と共通したり、類似したりする叙述を資料①から見付けることで、「水と二酸化炭素に分解」「分解する過程でマイクロプラスチックが発生」「魔法の素材ではない」といった叙述に着目し、複数の情報を関係付けて、自分の考えをまとめるようにする。

次に、本時の学習では、本文と資料②を関係付けて捉える学習に取り組む。資料②に関係する６、16、17、18 段落を前時と同様に壁面掲示で振り返り、それぞれの段落にはどのようなことが書かれていたのかを確認する。「新しいプラスチックに作りかえることができます」「石油をむだに使わずにすむ利点」「できるだけくり返し使う」などの叙述を押さえ、これらの叙述と関係する叙述を資料②の中から見付け、四角や丸で囲んだり、サイドラインを引いたりする。そして、資料②の「資源の有効利用」「できるだけ長く使えるもの」「再利用の素材」といった漁網かばんの特徴と、前述した本文の叙述を関係付けて、「海を漂うごみが商品に変わる」「きちんと回収することで、ごみがごみでなくなる」「回収すれば、もう一度使える・リサイクルできる」といった考え方を改めて実感できるようにする。さらに、本文と資料を関係付けることで、「ごみの分別をきちんとする」「プラスチックごみを出さないために、長く使えるものかどうかを考えて買う」「水筒やエコバックを使って、そもそもプラスチックを出さないようにする」など、プラスチックごみの問題を身近に捉え、問題の解決につながる自分の考えをまとめることができるようにする。

また、プラスチックごみの問題について考えるという単元目標やめあてに迫ることができるように、学習方法の選択ができるようにする。「一人で学ぶ」「友だちと学ぶ」「考えがまとまったので交流する」の三つの中から、選択できるようにすることで、学びを調整しながら学習に取り組むことができるようにする。特に、三つ目の交流では、学習者が目的をもって交流することができるように、観点を提示する。観点は、「他の人の考えが知りたい（他者参照）」「自分の考えが伝わるかどうか確かめたい（説得力の検証）」「よりよい表現がないか見てみたい（表現の洗練）」の三つを提示することで、学びの調整をさらに図ることができるようにする。

本文と資料を関係付けて捉えることができたら、学習者は、教科書以外の情報にも触れたいという意欲をもつと考えられる。そこで、教科書 167 ページの「情報のとびら」の小単元で、情報の信頼性や著作権、引用の仕方などについて確認し、教室内の関連図書コーナーやインターネットサイトのリンク先から、学習者がその他の情報に触れ、自分の考えを広げることができるようにする。この学習では、複数の情報の中から、必要な情報を適切に引用し、出典を明らかにして整理することができるようワークシートを用意し、学習者が活用できるようにする。

第三次では、集めた情報を基に、「私たちにできることを考えよう」という言語活動に取り組む。考えをまとめる際には、ノートか学習者用端末を選択し、学習者一人一人の実態に応じた個別の支援につなげるようにす

る。さらに、作成にあたっては「ルーブリック」を示すことで、学習者が学びを調整したり、学びの進み具合を確認したりしながら、主体的に言語活動に取り組むことができるようにする。

最後に、この言語活動の成果物を級友と読み合い、それぞれの違いやよさを認め合うようにする。そして、「この単元で学んだこと」「できるようになったこと」「学んだことを生かせる場面」の観点で単元全体を振り返り、学びを次の単元でも生かすことができるようにする。

９　指導と評価の計画（全９時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	○題名読みをし、言葉の力を確認する。 ○初発の感想を書く。	・言葉の力や言語活動のモデルを確認することで、単元の見通しをもつことができるようにする。 ・観点を提示し、初発の感想を書くようにする。	
	2	○文章構成を読み取る。	・「最初に」「次に」「最後に」の順序を表す言葉に着目し、文章のまとまりをつかむことができるようにする。 ・「分解」「リサイクル」「再利用」といったキーワードを共有することで、資料①②と関係のある段落を見付けるようにする。	
	3	○要旨を捉える。	・筆者の主張の一文を見付け、序論と結論に着目することで、要旨をまとめることができるようにする。	［思考・判断・表現①］ ノート ・論の進め方を読み取り、筆者の主張を捉えているかの確認
二	4	○本文と資料①を関係付けて、自分の考えをまとめる。	・本文と資料①に共通したり、類似したりする叙述を四角や丸で囲んだり、サイドラインを引いたりすることで、本文と資料を関係付けて捉えることができるようにする。	［知識・技能①］ ノート ・本文と資料に共通する叙述や類似する叙述を見付け、関係付けて捉えているかの確認
	5 本時	○本文と資料②を関係付けて、自分の考えをまとめる。	・本文と資料②に共通したり、類似したりする叙述を見付けることで、本文と資料を関係付けて捉えることができるようにする。	［思考・判断・表現①］ ノート ・本文と資料②の情報を関係付け、考えをまとめているかの確認
	6 7	○プラスチックごみの解決策についての情報を集める。	・「情報のとびら」の小単元を活用し、情報の信頼性や著作権、引用の仕方などについて確認する。 ・関連図書コーナーを用意したり、インターネットサイトを提示したりする	［主体的に学習に取り組む態度①］ ワークシート・振り返り ・進んで複数の情報を関係付け、自分の考えを

			ことで、複数の情報に触れることができるようにする。	広げようとしているかの確認
三	8	○集めた情報を基に、自分の考えをまとめる。	・「ルーブリック」を掲示することで、「どこまでできているのか」「何が足りないのか」について学習者が確認できるようにし、学びの進み具合を判断できるようにする。	
	9	○まとめたものを読み合い、単元全体を振り返る。	・単元で身に付けた力を振り返り、今後どのような場面で生かすことができるか考えるようにする。	［思考・判断・表現②］ 成果物・振り返り ・級友と成果物を読み合い、互いのよさや違いを見付けているかの確認

［知識・技能①］ノート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・本文と資料①②を読み、共通する叙述や類似する叙述を見付け、本文と資料の情報をまとめたり、関係付けて分かることを捉えたりしている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・同じ言葉や似ている叙述を見付け、四角や丸で囲んだり、サイドラインを引いたりするよう助言したり、関係付けの例を示したりすることで、複数の情報を関係付けることができるようにする。

［思考・判断・表現①］ノート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・文章構成を読み取り、筆者の主張を捉えている。

・本文と資料の情報を関係付け、プラスチック問題を解決に向けて、自分の考えをまとめている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・「最初に」「次に」「最後に」といった順序を表す言葉に着目することで、文章構成や本文のまとまりを捉えることができるようにする。

・共通している叙述や類似する叙述を見付けるよう助言したり、書き方の型を提示したりすることで、自分の考えをまとめることができるようにする。

［思考・判断・表現②］成果物・振り返り

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・まとめた考えを級友と読み合い、互いのよさや違いを見付けている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・自分がまとめたものと級友のものとの違いに着目するよう助言することで、それぞれのよさや違いを見付けることができるようにする。

［主体的に学習に取り組む態度①］ワークシート・振り返り

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・本文、資料①②、関連図書、インターネットの情報を進んで読み、学びを調整しながら複数の情報を関係付け、自分の考えを広げようとしている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・学習方法や交流の目的を選択できるようにすることで、学習者が自身の学びを調整することができるようにする。

10　本時の学習

（1）本時の目標（5／9）

本文と資料②の情報を関係付け、それを基にプラスチック問題の解決につながる自分の考えをまとめることができる。

（2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1　本時のめあてを確認する。	・壁面掲示を活用し、資料②と関係のある段落を確認したり、筆者の主張を振り返ったりする。 ・前時の学習を想起したり、学習計画を振り返ったりすることで、本時のめあてを確認できるようにする。	
本文と資料②を関係づけて、自分の考えをまとめよう。		
2　資料②を音読する。	・「『漁網かばんの特徴ってどんなところか』を考えながら音読しましょう」と指示することで、本文と関係する情報を見付けることができるようにする。	
3　本文と資料②を関係付ける。	・「本文と資料②を関係付けて、どんなことが分かりますか」と発問することで、「ごみが人を喜ばせる商品に変わる・リサイクル」「プラスチックごみも、そもそも資源の一つである」「ごみを出さない生活が、地球の環境を守ることにつながる」などの考え方を、改めて実感できるようにする。	
4　関係付けたことを基に、自分の考えをまとめる。	・支援が必要な学習者には、本文と資料②を関係付けて自分の考えをまとめることができるように、書き方の型を示す。 ・「一人で学ぶ」「友だちと学ぶ」「考えがまとまったので交流する」の三つの中から、学習方法を選択できるようにし、学びを調整しながら学習に取り組むことができるようにする。 ・交流の際は、「他の人の考えが知りたい」「自分の考えが伝わるかどうか確かめたい」「よりよい表現がないか見てみたい」の中から選択できるようにすることで、学習者が目的をもって交流できるようにする。	◆［思考・判断・表現①］ ノート ・本文と資料②から必要な情報を見付け、考えをまとめている。
5　全体交流する。	・本文と資料を関係付けて読むことで分かったことを全体で共有することで、学習者が自分の考えを広げることができるようにする。	
6　学習を振り返る。	・「今日できたこと・できなかったこととその理由」「困ったこと」「友達に助けられたこと・助けたこと」「次の目標」「何度も考えたことややり直ししたこと」の観点を提示し、本時の学びを自覚するとともに、次時への見通しをもつことができるようにする。	

１１　板書計画

プラスチックごみの問題について考えよう

「永遠のごみ」プラスチック　　保坂　直紀

本文と資料②を関係づけて、自分の考えをまとめよう。

筆者の主張：みんなで考え、行動に移しましょう。

本文

漁をするときに使うあみ　**リサイクル**　使用済みの漁網

きちんと回収すれば、新しいプラスチック製品に作りかえることができる。　**ごみ→人が喜ぶ商品**　再利用の素材　環境に配慮

石油をむだに使わずにすむという利点もあります。　**プラスチックごみも資源の一つ**　できるだけ長く使えるもの　**限りある資源**

すぐに捨てずに、できるだけくり返し使う。　**リデュース**　持続可能　**ごみを出さない→環境を守ることになる**

資料②

自分の考え

・リサイクルができるよう、ごみの分別をきちんとする。
・ごみになるプラスチックが回収されれば、人を喜ばせることのできる商品にもなる。
・プラスチックも資源の一つだから、繰り返し使う。
・プラスチックごみを出さないために、長く使えるものを買う。エコバックや水筒を使う。
・リサイクル商品をもっと調べ、買うようにする。